



2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年1月29日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 スクロール
 コード番号 8005 URL <https://www.scroll.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 堀田 守
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員経営統括部長 (氏名) 杉本 泰宣 TEL 053-464-1114
 四半期報告書提出予定日 2021年2月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績（2020年4月1日～2020年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	65,581	16.1	6,372	150.8	6,504	144.9	4,515	336.4
2020年3月期第3四半期	56,464	2.4	2,541	17.5	2,656	21.9	1,034	△28.5

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 4,529百万円 (335.0%) 2020年3月期第3四半期 1,041百万円 (△13.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	130.62	130.25
2020年3月期第3四半期	30.11	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	48,488	25,683	53.0
2020年3月期	43,270	21,462	49.6

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 25,679百万円 2020年3月期 21,440百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00
2021年3月期	—	7.50	—	—	—
2021年3月期（予想）	—	—	—	44.50	52.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

3. 2021年3月期の連結業績予想（2020年4月1日～2021年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	83,000	14.3	6,400	198.3	6,500	183.0	4,500	539.5	129.27

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）－、除外 一社（社名）－

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期3Q	34,818,050株	2020年3月期	34,818,050株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	6,748株	2020年3月期	303,072株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期3Q	34,572,553株	2020年3月期3Q	34,359,105株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。なお、上記予想に関する事項は、〔添付資料〕3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料の入手方法について）

四半期決算説明資料は、2021年1月29日に当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行拡大による経済活動の急速な収縮により、景気は後退局面に入りました。2020年5月に緊急事態宣言が解除された後は徐々に経済活動が再開され、政府による各種支援策の効果もあり、景気は持ち直しの動きをみせましたが、第3波の到来により感染者数が急増しており、先行きは極めて不透明な状況が続いています。小売業界におきましては、外出自粛や営業時間の短縮等の影響に加え、所得・雇用環境の悪化による消費マインドの減退が懸念されています。コロナ禍における消費志向の変化等から、商材により需要動向が分かれています。依然として厳しい経営環境が続いています。通販業界におきましては、外出自粛に伴う購買行動の変化により、EC・通販の利用が増加しています。一方、新規参入企業の増加や物流コストの上昇等により、業種・業態を越えた競争が激化しています。

このような事業環境のなか、当社グループは、「収益力のあるDMC (Direct Marketing Conglomerate) 複合通販企業戦略の推進」を方針とし、主力である通販事業の収益最大化及びソリューション事業の成長に向けた施策等に取り組んでまいりました。なお、就業環境につきましては、新型コロナウイルス感染症への対策として、グループの行動基準計画に則り、拠点ごとの感染警戒レベルに応じて在宅勤務体制へ柔軟に変更するなど、従業員やお取引先関係者の安全と健康を最優先に考えた事業運営を行っております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高65,581百万円（前年同四半期比16.1%増）となりました。利益面におきましては、営業利益6,372百万円（同150.8%増）、経常利益6,504百万円（同144.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益4,515百万円（同336.4%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

前連結会計年度まで、7つの報告セグメントで事業を展開してまいりましたが、このうち「海外事業」セグメントにおいて実施しておりました、ASEANにおける取引先の新規開拓やグループ商材の販路構築機能を、第1四半期連結会計期間から、「通販事業」及び「グループ管轄事業」セグメントに移管し、6つの報告セグメントへと変更しております。以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (セグメント情報)」をご参照ください。

なお、セグメント別の売上高は連結相殺除去後の数値を、セグメント利益又は損失は、連結相殺除去前の数値を記載しております。

① 通販事業

通販事業におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛の意識の高まり等に伴い、ホームウェアをはじめとする在宅商品を中心に売上が増加いたしました。このようななか、商品調達方法の見直しによる原価率の低減や、効率的なカタログ配布による販促費率の低減に取り組むなど、事業効率の向上による収益の最大化を推進しております。

以上の結果、売上高は33,318百万円（前年同四半期比18.1%増）となり、セグメント利益は5,653百万円（同140.1%増）となりました。

② ソリューション事業

ソリューション事業におきましては、顧客であるEC・通販事業者の巣ごもり消費等に伴う需要拡大により、物流代行、決済代行サービス及びアフィリエイトをはじめとするメディア事業の売上が増加いたしました。今後更なる成長が見込まれるEC・通販市場において、より多くのソリューションサービスを提供できるよう、引き続き、サービスメニューの拡充に取り組んでおります。また、2020年5月に茨城県つくばみらい市において稼働した大型物流センター「SLCみらい」の新規顧客獲得に向けた営業活動に注力し、全国通販3PL戦略を推進してまいります。

以上の結果、売上高は13,040百万円（同21.3%増）となり、セグメント利益は677百万円（同114.7%増）となりました。

③ eコマース事業

eコマース事業におきましては、コロナ禍における実店舗の休業や外出自粛の影響によりお客様の消費動向や生活様式が変化するなか、キャンプやフィッシングなどのアウトドア用品や、インテリア・雑貨などの巣ごもり需要商品の売上が増加いたしました。さらに、防災意識の高まりに伴う防災用品・備蓄品等の需要増により、特に自治体向けの販売も増加いたしました。また、各社において販促活動の効率化を追求し、収益力強化に向けた事業基盤の構築に注力いたしました。

以上の結果、売上高は17,044百万円（同19.2%増）となり、セグメント利益は755百万円（同203.1%増）となりました。

④ 化粧品事業

化粧品事業におきましては、店舗向け卸販売が新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けるなか、インターネットを中心とした直接販売を強化し、顧客基盤の構築に注力しております。また、コロナ禍における新たな生活スタイルに対応した新製品の開発にも取り組んでまいりました。

以上の結果、売上高は2,037百万円（同26.7%減）となり、セグメント損失は641百万円（前年同四半期はセグメント損失473百万円）となりました。

⑤ 旅行事業

旅行事業におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大による国内の旅行自粛や海外からの入国制限などが続いております。「GoToトラベル」施策により、事業活動を再開いたしましたが、施策の一時停止や感染者の急増により、再び不透明な状況になっております。

以上の結果、売上高は134百万円（前年同四半期比66.5%減）となり、セグメント損失は80百万円（前年同四半期はセグメント損失97百万円）となりました。

⑥ グループ管轄事業

グループ管轄事業におきましては、当社グループの物流オペレーションや自社保有物流施設等の不動産賃貸を行っております。

以上の結果、売上高は6百万円（前年同四半期比6.1%減）となり、セグメント利益は171百万円（同0.1%減）となりました。なお、内部取引を含めた売上高は2,560百万円（同27.4%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は48,488百万円となり、前連結会計年度末に比べ5,218百万円増加いたしました。この主な要因は、売上高の増加に伴う売掛金の増加、建物及び構築物の増加によるものであります。

(負債)

負債は22,805百万円となり、前連結会計年度末に比べ997百万円増加いたしました。この主な要因は、借入金の増加、未払法人税等の増加、未払金の減少によるものであります。

(純資産)

純資産は25,683百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,220百万円増加し、自己資本比率は53.0%（前連結会計年度末は49.6%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2020年10月29日の「業績予想の修正及び配当予想の修正に関するお知らせ」において公表いたしました2021年3月期の通期の連結業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日（2021年1月29日）公表いたしました「業績予想の修正及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,828	2,834
売掛金	9,577	14,486
たな卸資産	8,390	9,399
その他	4,485	4,552
貸倒引当金	△305	△357
流動資産合計	26,976	30,916
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,895	7,388
土地	5,520	5,520
その他(純額)	3,282	976
有形固定資産合計	12,698	13,884
無形固定資産		
のれん	171	139
その他	788	675
無形固定資産合計	959	814
投資その他の資産		
その他	2,871	3,275
貸倒引当金	△235	△401
投資その他の資産合計	2,636	2,873
固定資産合計	16,294	17,572
資産合計	43,270	48,488
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,561	3,401
短期借入金	100	4,300
未払金	11,691	6,724
未払法人税等	395	1,789
引当金	321	243
その他	1,007	1,753
流動負債合計	16,077	18,211
固定負債		
長期借入金	4,375	3,100
引当金	82	63
退職給付に係る負債	1,180	1,275
その他	94	155
固定負債合計	5,731	4,594
負債合計	21,808	22,805

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,005	6,005
資本剰余金	6,657	6,631
利益剰余金	8,662	12,746
自己株式	△169	△3
株主資本合計	21,155	25,380
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	219	315
繰延ヘッジ損益	61	△20
為替換算調整勘定	4	4
その他の包括利益累計額合計	285	299
新株予約権	21	3
純資産合計	21,462	25,683
負債純資産合計	43,270	48,488

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	56,464	65,581
売上原価	35,842	40,997
売上総利益	20,622	24,584
販売費及び一般管理費	18,080	18,212
営業利益	2,541	6,372
営業外収益		
受取利息	12	16
受取配当金	40	34
為替差益	31	70
その他	62	37
営業外収益合計	147	159
営業外費用		
支払利息	16	21
その他	15	5
営業外費用合計	32	26
経常利益	2,656	6,504
特別利益		
投資有価証券売却益	—	0
特別利益合計	—	0
特別損失		
固定資産除却損	7	0
減損損失	778	105
その他	—	0
特別損失合計	785	107
税金等調整前四半期純利益	1,870	6,397
法人税、住民税及び事業税	799	2,081
法人税等調整額	35	△199
法人税等合計	835	1,881
四半期純利益	1,034	4,515
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,034	4,515

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	1,034	4,515
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△0	96
繰延ヘッジ損益	17	△81
為替換算調整勘定	△9	△0
その他の包括利益合計	6	13
四半期包括利益	1,041	4,529
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,041	4,529
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	通販事業	ソリュー ション 事業	eコマース 事業	健粧品 事業	旅行事業	グループ 管轄事業	計		
売上高									
外部顧客への 売上高	28,223	10,752	14,301	2,779	401	6	56,464	—	56,464
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	76	1,671	246	△199	0	2,003	3,798	△3,798	—
計	28,299	12,423	14,547	2,580	401	2,010	60,262	△3,798	56,464
セグメント利益 又は損失(△)	2,354	315	249	△473	△97	171	2,519	136	2,656

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額には、未実現利益等の調整136百万円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「健粧品事業」において、第2四半期連結会計期間に、当社の連結子会社である株式会社キナリに係る固定資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額155百万円を減損損失として計上しております。

また、「ソリューション事業」において、第2四半期連結会計期間に、当社の連結子会社である株式会社もしもに係る固定資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額622百万円を減損損失として計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

「健粧品事業」において、第2四半期連結会計期間に、当社の連結子会社である株式会社キナリについて株式取得時に想定していた収益が見込めなくなったため、のれんの未償却残高116百万円を減損損失として計上しております。

また、「ソリューション事業」において、第2四半期連結会計期間に、当社の連結子会社である株式会社もしもについて株式取得時に想定していた収益が見込めなくなったため、のれんの未償却残高516百万円を減損損失として計上しております。

なお、上記(固定資産に係る重要な減損損失)の中に当該のれんの減損も含めて記載しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	通販事業	ソリュー ション 事業	eコマース 事業	健粧品 事業	旅行事業	グループ 管轄事業	計		
売上高									
外部顧客への 売上高	33,318	13,040	17,044	2,037	134	6	65,581	—	65,581
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	47	2,050	336	57	—	2,554	5,046	△5,046	—
計	33,365	15,091	17,381	2,095	134	2,560	70,628	△5,046	65,581
セグメント利益 又は損失(△)	5,653	677	755	△641	△80	171	6,535	△31	6,504

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額には、未実現利益等の調整△31百万円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

前連結会計年度の末日に比べ、「ソリューション事業」の資産金額は、7,336百万円増加しております。これは、新物流センター「SLCみらい」の稼働開始等によるものであります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、従来、「海外事業」に含めていた海外子会社3社を「グループ管轄事業」へ、「海外事業」に含めていた機能を「通販事業」へ報告セグメントを変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。